

# 海に対する国民の理解と関心の醸成 について

---

# 「海の日」行事 開催結果報告

## 1. “海と日本プロジェクト”総合開会式

- ・ 日 時:平成28年7月18日(月)
- ・ 場 所:東京港晴海客船ターミナル
- ・ 参加者:約310名(うち小中高生親子約150名)
- ・ 次 第: 島尻海洋政策担当大臣 挨拶(松本内閣府副大臣代読)  
安倍総理大臣メッセージ 紹介  
石井国土交通大臣 挨拶  
笹川日本財団会長 挨拶
- ・ 式典の様様を多数のTV、新聞等が報道。



## 3. “海と日本プロジェクト”「海の人材育成に関する国際シンポジウム」

- ・ 日 時:平成28年7月19日(火)～20日(水)
- ・ 場 所:キャピトルホテル東急
- ・ 内 容:「世界海洋人材育成の実践」をメインテーマに7つのセッション及びパネルディスカッションを実施し、海洋人材育成と海洋教育に関し活発な議論。



※ 7月19日に土井国土交通副大臣が開会挨拶し、江島国土交通政務官がレセプションで挨拶。

(以上1～3「海の日」行事“海と日本プロジェクト”につき、総合海洋政策本部、国土交通省、日本財団の共催)

## 2. “海と日本プロジェクト”「海の日」記念祭

- ・ 日 時:平成28年7月18日(月)
- ・ 場 所:東京港晴海埠頭
- ・ 参加者:1万名超(小中高生等の一般の方々)
- ・ 内 容:(1)海の船一斉公開(7種類9隻。延べ約12000名乗船。)、海洋セミナー  
(2)「海上保安政策課程」一期生の成果報告会



※石井国土交通大臣に対し、海上保安庁巡視船いず船内にてアジア各国の海上保安機関幹部候補生が成果を報告。



## 4. 「海フェスタ東三河」

- ・ 日 時:平成28年7月16日(土)～31日(日)
- ・ 場 所:豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村(5市2町1村)
- ・ 参加者:100万名超(一般の方々)
- ・ 内 容:海・川・港の魅力や重要性を次の世代へ繋げ多彩で豊かな地域資源の魅力在全国に発信することを基本コンセプトとして、記念式典・祝賀会をはじめ、海の総合展、練習帆船や大型船の一般公開・体験航海など様々な事業を開催。

※ 7月20日、秋篠宮殿下及び同妃殿下御臨席の下、土井国土交通副大臣が記念式典で挨拶し、祝賀会に出席。

キャッチフレーズ

この空と 東三河の 海が好き

シンボルマーク



(このほか、「海の月間」として全国で660以上の行事・イベントを開催。)

# 「国際シンポジウム」における国土交通省企画セッション概要

○「ニッポン学びの海プラットフォーム」(仮称)の構築にあたり、学校教育における海洋教育の充実を図るため、各主体の担うべき役割と今後の連携のあり方、取組の方向性について、産学官の代表が議論。

○「海の人材育成に関する国際シンポジウム」(7月19日(火)・20日(水))の中において開催(7月20日(水)14:20~15:20)。

## 【モデレーター兼パネリスト】

- ・日置光久 東京大学海洋アライアンス  
海洋教育促進研究センター特任教授

## 【パネリスト】

- ・浅田和伸 文部科学省大臣官房審議官(高大接続・初等中等教育局担当)
- ・天野未知 葛西臨海水族園 教育普及係長
- ・工藤泰三 日本船主協会会長
- ・篠原文也 政治解説者
- ・永松健次 国土交通省海事局次長

(敬称略、五十音順)

## 【テーマ】

- 「次世代を見据えた海洋教育のあり方」

## 【進行】

①セッション及びテーマの紹介

②ディスカッション

- ・日本における海洋教育の意義、現状と課題【日置教授】
- ・海洋教育に関する文科省の取り組み、プラットフォームの必要性【浅田審議官】
- ・海事・海洋関係分野の海洋教育の必要性、プラットフォームへの期待【工藤会長】
- ・海洋教育における体験談、プラットフォームへの期待【天野氏】
- ・主権者教育における海洋教育等【篠原氏】
- ・プラットフォームの立ち上げについて表明【永松次長】

③まとめ

- ・プラットフォームの重要性の認識
- ・プラットフォーム立ち上げの決意表明





平成 28 年 7 月 18 日

## 「海の日」を迎えるに当たっての内閣総理大臣メッセージ

日本は、国土面積の約 1.2 倍、世界第 6 位の海域面積を誇る「海洋国家」です。海は、古来、私たちに豊かな食をもたらし、物や人が行き交い、子供にとっては遊びと学びの場でした。日本は、海を利用して産業を興し、近代化を遂げてきました。海が日本という国の形を作ってきたと言っても過言ではありません。

海洋産業には、新たな可能性が生まれています。近年、日本周辺の海域に、新たなエネルギー資源や鉱物資源が眠っていることがわかってきました。海洋エネルギー・鉱物資源開発、海洋プラント等の産業を創出する海洋資源開発が、我が国の成長を牽引するフロンティアとなることを期待しています。

この海の恵みを後の世代に引き継いでいかなければなりません。そのためには、海洋を、国際法の下、人類共通の公共財として守っていくことが必要です。伊勢志摩サミットでは、私が国際社会に繰り返し訴えてきた「海における法の支配の三原則」が G 7 首脳宣言として採択されました。国際法に基づく主張、緊張を高める一方的な行動の自制、平和的手段による紛争解決というこの三原則を、国際社会とともに徹底させていきます。

昨年秋からは、アジア各国の海上保安機関の幹部候補生が、日本の海上保安官とともに日本で海上保安政策を学んでいます。世界の平和と繁栄のため、各国と志をともにし、海を護る絆を固めてまいります。

海と接し、海を知ってこそ、海を活かす知恵が生まれます。特に若い皆さんに、海に関心を持ち、触れて頂きたいと思います。海洋教育の取組を強化していくため、産学官オールジャパンによる海洋教育推進組織「ニッポン学びの海プラットフォーム」を立ち上げることといたします。この「プラットフォーム」を通じて、2025 年までに、全ての市町村で海洋教育が実践されることを目指します。

私は、「海の日」が国民の皆様にとって、海に親しみ、海の恩恵に感謝するとともに、海と日本の未来に思いを馳せる機会となることを切に希望します。

平成 28 年 7 月 18 日

内閣総理大臣・総合海洋政策本部長 安倍晋三

[http://www.kantei.go.jp/jp/97\\_abe/discourse/20160718uminohi.html](http://www.kantei.go.jp/jp/97_abe/discourse/20160718uminohi.html) (官邸 HP)

- 毎年「海の日」にあわせて、海事行政への国民の理解と関心を得るため、海事レポートを発行しています。
- 本年も7月に発行し、国交省HPにもアップしました。概要は以下のとおりです。

海事局最前線	
海事行政の重要課題のうち特にタイムリーなものを、データや現場の実情を具体的に示しながら、分かりやすく解説します。	
① 海事産業の生産性革命	→
② 海運・造船を支える人材の確保・育成	
③ 観光立国の推進	→
第Ⅰ部 海事行政の最重要課題	
海事行政の直面する課題とその対応策について、政策課題ごとに、コラムを交えながら紹介します。	
第1章 安定的な国際海上輸送の確保	
第2章 内航海運・内航フェリーの活性化	
第3章 使いやすい地域公共交通の実現	
第4章 海洋開発の推進	
第5章 安全・安心の確保	
第6章 環境に優しい海上交通の実現	
第7章 海に対する国民の理解と関心の醸成	
第8章 海に関する国際ルール作りや国際プレゼンス向上への貢献	
第Ⅱ部 海事の現状とその課題	
年次報告として、豊富な図表や統計データで海事産業の現状を紹介합니다。	

